

職場における交通安全指導 Part.3

交差点の安全な通過方法～直進時の安全走行～

交差点手前から直進レーンを走行することが基本

進行方向別通行区分がある交差点では、交差点の手前から直進レーンに入っておくことが安全走行の基本です。

市街地の交差点で、右折レーンを走行していて交差点の直前で直進レーンに移行したために、後続車との接触事故を起こすケースがよくあります。(図1)

前方に交差点が見えた時点で、早めに直進レーンに移行しておくことと、交差点直前の割り込みは絶対に避けるよう徹底した指導が必要です。

直進時における最も多い事故パターン(ケース1)

「信号が黄色に変わったとき、停止した前車に追突」

信号が黄色に変わったとき、前車が通過するものと勝手に判断したため、交差点手前で停止した前車に追突する事故が多発しています。(図2)

こうした事故の原因を調べてみますと、ほとんどが黄信号に変わったが、前車はそのまま進行するだろうと思い、自車はスピードを上げて追従したところ、前車が停止したので追突してしまったという、前車の動きを誤って判断したことが原因となっています。

＜指導のポイント＞

前車が「通過するだろう」と決めるのは、全く身勝手な思い込みです。交差点に入る前に黄信号になった場合は停止するのが原則です。そのためには、交差点に接近したら、信号の変化に注意するとともに、前車がブレーキを踏む可能性を常に頭におき、車間距離を意識的に大きくとることです。

直進時における最も多い事故パターン(ケース2)

「無信号交差点で右からの二輪車と出合頭で衝突」

出合頭事故の大半は、一時停止や徐行を怠り発生しています。(図3)

「うっかり」「ぼんやり」して標識を見落とししたり、あるいは「車は来ないだろう」と勝手な判断をして、右からの二輪車を見落とし、衝突するケースも発生しています。

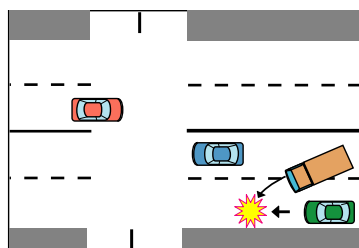
また、相手道路が実際より狭く見え、自分が走行している道路の優先権を過信して、一時停止せずに進入したために発生しているケースもあります。

＜指導のポイント＞

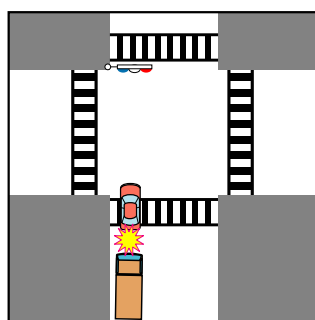
一時停止の標識があれば、必ず止まり、左右の安全確認をしなくてはなりません。この場合、停止線で止まり、それから徐々に頭を出していかない限り正しい安全確認ができませんので、単に停止するだけでなく、ソロリと車を出し、確認ができるところで再度停止することです。

特に生活道路などは、見通しの悪い交差点が多いので、「車は来ないだろう」ではなく、「来るかもしれない」と意識することで、安全性の高い運転につながります。

～事故状況 図1～



～事故状況 図2～



～事故状況 図3～

